# 勇者と業者と愚者

氷野　透馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
勇者と業者と愚者

【Ｎコード】
Ｎ０４９８ＢＡ

【作者名】
氷野　透馬

【あらすじ】
はるか昔に勇者が通った道を、今は多くの商人が街から街へ移動するために使っている。ある日愚者はそれを見て首をかしげたのであった。

中央街と呼ばれる大きな街の一番外側にある門は”ガイウス門”と呼ばれている。
その所以は、勇者ガイウスが中央街のその門から出て、その先の商業街への道を切り開いたからだ。
当時は中央街の周りは魔物がうろついており非常に危険であったが、勇者は魔物よりも、中央街の経済が停滞する方を危惧して道を切り開いたのだ。

そのガイウス門の真下に立ったいかにも貧しそうな姿をしている男が、もう一人の男に尋ねた。
もう一人の男はそこそこの身分がありそうな小奇麗な服装をしている。

「昔勇者がいたそうだな。」

その問に対してそこそこの身分がありそうな男が答えた。

「ああそうだとも。勇者は偉大だ。そのおかげで経済が発展したのだからな。」

しかし貧しそうな男はその問に対して不満そうだ。
身分がありそうな男がなぜかと尋ねると、男はこう答えた。

「勇者はこの道しか歩いてない。つまり、皆が勇者の後に続いて歩いてる。」

「せっかく道を切り開いてくれたんだ。使わない手はないだろう？」

今度は身分がありそうな男が男の発言に対して不満そうに言い返した。
それに対して貧しそうな男はため息を付いた。
「そういう話をしてるんじゃないんだ。なぜここから右や左に向かってに歩こうとしない？なぜ皆が皆、前にある道を進んでいくんだ？」
「そりゃあ道があるからだろう。」
この答えを貧しそうな男は鼻で笑った。
その反応に身分がありそうな男の眉間にシワが寄る。
「なんか反論したいのか？」
「お前は勇者ごっこしたことあるか？」
「俺はそこそこ身分があるからないな…」
「俺はある。」
貧しそうな男は誇らしげに笑い、そして続けた。
「勇者は言ってたよ。『確かに俺はこの道を歩き、商業街までの道を切り開いた。しかしそれは商業の発展のためではない。中央街の人々に、未知への一歩を踏み出す勇気を知ってもらいたかったのだ』とね。」
満足そうに語り終えると、男はくるっと右を向いて歩き始めた。

それを見て身分がありそうな男が慌てて男を止めようとする。

「おい待て。なんでお前が行く必要がある？武器も防具も道具もないのに！」

貧しそうな男は振り返った。

「知ってるか？旅だった勇者は、もう帰らない。」

そう言い残すと男はそのまま森の中へと姿を消していった。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0498ba/

勇者と業者と愚者

2012年1月1日00時57分発行